

コロナ第2波に備えて ～相談支援ができること～

半田市障がい者相談支援センター
センター長 加藤 恵

1

今日お伝えすること

- 実際に事業所で感染が確認されたときの相談支援の対応
- 併用事業所があるという現状の上で、なるべく感染拡大させないための工夫（支援必要度と利用事業所の一覧表の作成）
- 各市町の確立したほうが良いと思われる、陽性およびPCR検査を受けたときの連絡調整のルール作成の必要性について
- 相談支援事業所としての感染対策の工夫の準備
- 自立支援協議会は必要不可欠か？協議を止めない工夫
- 第2波に向けて、第1波で利用者と事業所において、何が困難であったかを知り、それぞれの市町で工夫を検討しよう！

2

コロナ第一波の時（3月4月初旬） 市内事業所で感染あり

3月初旬市内高齢事業所にて感染者発生
（10名ほどの障害のある方利用あり）

- ①利用者の接触状況の確認（高齢事業所と）
②利用者の支援必要度と家族の状況の確認（指定相談と）
③すべての利用者が事業所の併用があったため、サービス調整を行う（ご家族と＋事業所と）
（発生日から2週間のサービス停止）
（併用事業所への現状説明）
④家族がいない方の在宅でのサービスの調整

3

家族がいない方の在宅でのサービスの調整をどうするのか？

今回のケースでは、利用者自身にも身体介助・家事援助が必要であり、こどもにも障がいがあるといった家庭の調整を必要としました。

身体介護（パット交換・入浴支援など）と家事援助（食事の提供）は最低限必要な支援でした。



ヘルパーにも事情を説明し、調理の部分はスーパーで買い物をしてセッティングに変更。身体介護は接触を極力減らし、時間を短縮して実施することを市役所と話し合いのもと合意していただき、ヘルパーに指示。

マスク・消毒・手袋などを市役所と調整。

4

もし、半田で感染が拡大したら・・・ 支援の必要度の把握が必要！！

- ①半田市と感染発生から調整の過程と今後やるべきことの話し合いを重ねる
- ②基幹で支援の必要度の必要項目を作成。
- ③市と協議をし、市内の指定相談支援事業所に協力依頼をし、支援の必要度シートの作成依頼（早急にとお願いし、2週間で作成）

半田市の計画作成率は99% 1名のセルフ以外は計画相談の相談員がついている。

5

サービス利用者の支援必要度と利用事業所、家族状況を一覧にして把握した！

利用者名	障がい名	住所	緊急連絡先	ケアデイ・児童発達・学習①	ケアデイ・児童発達・学習②	幼・保・学校	通所事業所①	通所事業所②
半田 太郎	知的	半田市東洋町2丁目1番地	0569-21-3111	半田デイ		半田中学校	半田市半田通所	

ヘルパー①	ヘルパー②	訪問	GH・入所	相談事業所名	担当者	地域定着	児童
その他				半田市障がい者相談支援センター	半田 愛子	利用している	○

支援必要度												
医ケア	1人暮らし	要支援家庭	連絡手段	トイレ	食事	移乗	買物	入浴	精神状態	第1次避難所	要支援登録	備考
○		母子&貧困	電話可						不安定	さくら小学校	登録あり	ヘルパー:訪問介護半田

6

自粛要請が出る中、最後まで支援を必要とする家庭を把握し、**事業所と調整**。

- ①要支援家庭・母子家庭・共働き家庭・一人暮らし・老障家庭など家庭で自粛をすることが難しい家庭を市役所と基幹で把握。
- ②事業所からの事業所休業や時間短縮については、市役所に連絡いただくことにしていたので、その際に自粛が難しい家庭については、調整ができないかお願いをする。

+

感染者や濃厚接触者が出たときに、他の事業所に感染を拡大しないために、併用利用者の把握と、すぐにサービス調整ができる体制を確保する目的もあった！

7

次に感染者および濃厚接触者が出た場合の連絡調整ルールの作成が必要。

スタッフおよび利用者の感染の可能性の報告が上がるようになる。

- ①スタッフおよび利用者がPCR検査を受けるようになった場合には、市または基幹相談支援センターに連絡を下いという依頼文を市から事業所に送る。
- ②市役所と基幹でPCR検査を受けるという連絡がきたとき、および陽性があったという連絡が入った際の聞き取りシートを作成・共有する。
- ③感染者が出た場合には、市役所と基幹にある支援の必要度シートをもちいて、併用事業所等への連絡調整等を行うようにした。

8

PCR検査を受けたとき陽性の時のマニュアルと聞き取りシートを作成

<<PCR検査を受けると連絡があったときの対応について>>

聞き取り バージョン1 ～本人・家族から連絡があった場合～

- ① 本人の症状が出たのがいつからか？どんな症状であったのか聞く
- ② 本人の発症前1週間のサービス利用状況（日時）について聞く
- ③ 感染拡大を防ぐため、PCR検査の結果が出るまでは自宅待機していただくこと、出たらすぐに連絡いただけるように伝える。
- ④ この時点で市役所と基幹相談で情報を共有し、出た場合にすぐに事業所のサービス提供の調整ができるように準備を行う（トリアージシートで事業所利用者の把握とその中で自宅での支援が難しい人の洗い出しをしておく）

聞き取り バージョン2 ～事業所から連絡があった場合～

- ① 本人またはスタッフの症状が出たのがいつからか？どんな症状があったのかを聞く
- ② 罹患者の送迎・食事・入浴・作業（活動）の接触について発症前1週間の状況をまとめてもらうように伝える（その後すぐに対応できるように）
- ③ 念のために、個人情報であり、まだPCR検査の結果が出ていないので、外部への情報の提供は配慮してもらうように伝える。
- ④ PCR検査の結果について連絡がきたら、すぐに連絡をください。またこちらの方に先に連絡が入るようでしたら、すぐに事業所に連絡しますと伝える。
- ⑤ この時点で市役所と基幹相談で情報を共有し、出た場合にすぐに事業所のサービス提供の調整ができるように準備を行う（トリアージシートで事業所利用者の把握とその中で自宅での支援が難しい人の洗い出しをしておく）

情報は集中させる。市・基幹でも情報を集約させる人を指定

PCR検査を受けると連絡が入った場合の対応シート										
連絡が入った日時	月	日	()	時	分	聞き取り者名				
連絡先	本人	家族	(父 ・ 母 ・ その他())	事業所	()					
誰が検査を受けるのか(氏名)						本人	家族	職員		
PCR検査を受ける日	月	日	()	時	分	<連絡先>				
症状が出たのはいつからか						どんな症状だったか				
月	日	()								
発症前1週間のサービス利用状況 / 勤務状況										
①	月	日	()							
②	月	日	()							
③	月	日	()							
④	月	日	()							
⑤	月	日	()							
⑥	月	日	()							
⑦	月	日	()							
<伝えること>										
<input type="checkbox"/> 感染拡大を防ぐため、PCR検査の結果が出るまでは自宅待機していただく										
<input type="checkbox"/> 結果が出た時点ですぐに連絡をいただきたい										
<input type="checkbox"/> (事業所のみ) 対象者が送迎・食事・入浴・活動(作業)で接触した方が誰かを1週間分まとめていただく										
<input type="checkbox"/> (事業所のみ) 個人情報のため、PCR検査の結果が出るまでは外部への情報提供は配慮いただく										
報告日時	月	日	()	時	分	<対応者>	加藤	徳山	都筑	法安
<対応チェック>										
<input type="checkbox"/> 基幹相談で共有 (加藤 徳山 都筑 法安)										
<input type="checkbox"/> 市役所と共有 (報告した相手:) : に連絡										
トリアージシートの確認						利用事業所()				
自宅での支援が難しい可能性						なし	あり	(理由)		
PCR検査の結果(月 日) <input type="checkbox"/> 陽性 <input type="checkbox"/> 陰性 (保健所からの指示:)										

9

相談支援センターとしての感染対策 4月～5月中旬（緊急事態宣言中）

目的：スタッフの中に感染者が出ても支援が持続するために

方法：

- ① 相談員を2チームに分け、部屋をわけて勤務。
- ② 密をさけるために、早出・遅出および特別休暇の体制を整備。
- ③ マスクの着用および出勤時の体温記入などの健康管理を行う。

準備：

- ① 2週間出勤ができなくなっても利用者や事業所が困らないために他の相談員がみてもわかるよう準備してもらう。

実相談業務：

- ② 利用者に文章で通知後、訪問から電話でのモニタリングに切り替える。
(他の指定相談事業所にも例文を提示し、同様に切り替えを依頼)
- ③ 5月中旬・自粛解除以降は訪問の実施も行うが、マスク着用・携帯用アルコールを配布し、対策を継続

10

自立支援協議会・障害者計画等作成 の業務の実施方法

自立支援協議会は必要不可欠なものか？否か？⇒必要なもの

①事業所が集まるものについては、感染拡大防止の観点から極力ZOOMを活用する。（研修や事業所が多く集まる部会）

⇒ZOOMについては、基幹センターで契約あり。月2000円

センターでIPADを2台購入。

市も市役所の1室でインターネットが可能な部屋を設置。

②どうしても集まって議論をする必要があるものについては、会議室の通常定員の半分の人数や換気等のルールを設けて実施。



実際どの部会でもZOOM実施済み。研修もZOOM実施済み。

11

第2波に備えて、事業所の困り感と利用者・ 家族の困り感を把握する <事業所版>

新型コロナウイルス感染症に伴う事業所状況の聞き取り（児サービス）

事業所名 _____

利用状況 一貫質問：コロナの影響で収入減少となっている場合には半田市として対策を検討する為

利用状況	月	火	水	木	金	土	日
通常	人	人	人	人	人	人	人
休校後	人	人	人	人	人	人	人
電話対応 切り替え	人	人	人	人	人	人	人
利用自粛	人	人	人	人	人	人	人

⇒コロナの影響が出る前（2月頃まで）と比較して収入減少はあるか 有る ・ ない

営業時間

休校後 _____ : _____ ~ _____ : _____
理由 感染リスク軽減 / 職員体制がとれない / その他 (_____)

利用者送迎

休校後 有 (自宅送迎 / ポイント送迎) ・ 無 ・ その他 (_____)
理由 感染リスク軽減 / 職員体制がとれない / その他 (_____)

環境設定

一貫質問：工夫したいものの、ハード面・ソフト面等で対応が難しいことがあるか
コロナ後 変更なし / 部屋(場所)を分けている / その他 (_____)
理由 感染リスク軽減 / 職員体制の都合 / その他 (_____)

利用者状況

特に変化なし / 通常時より不安定になっている / その他 (_____)
理由 例：感染リスクに不安を感じている、家庭状況も相まってストレスが増している、家族が心配など

職員状況

特に変化なし / 疲弊している / 休みの職員がいる / その他 (_____)
理由 例：コロナに伴う対応の変化等で精神的に辛い、職員の子どもが休校のため出勤できないなど

(コロナで) 職員体制の不足を感じるか はい ・ いいえ

はい⇒どんな応援があると助かるか・経験のない福祉大生等でもアルバイトとして受入れ可能か

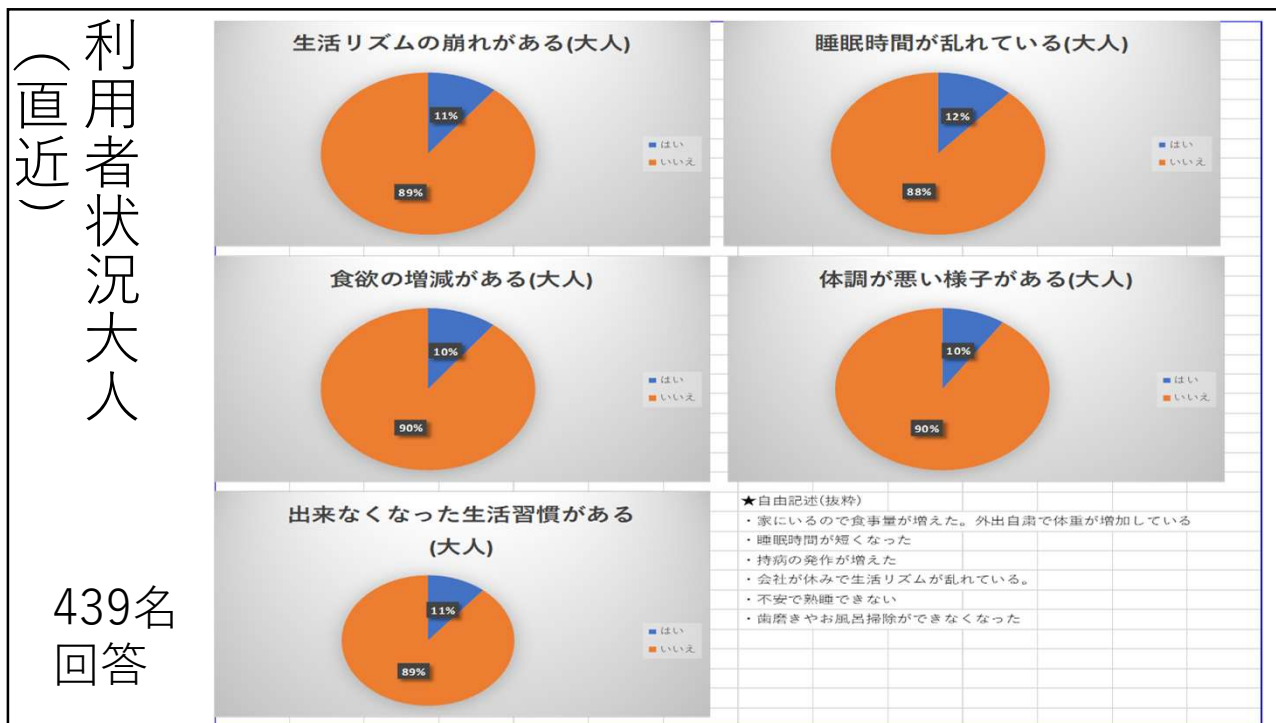
コロナに伴う不都合や不安があるか 一貫質問：本当はこう対応したいができない等本音を伺う

12

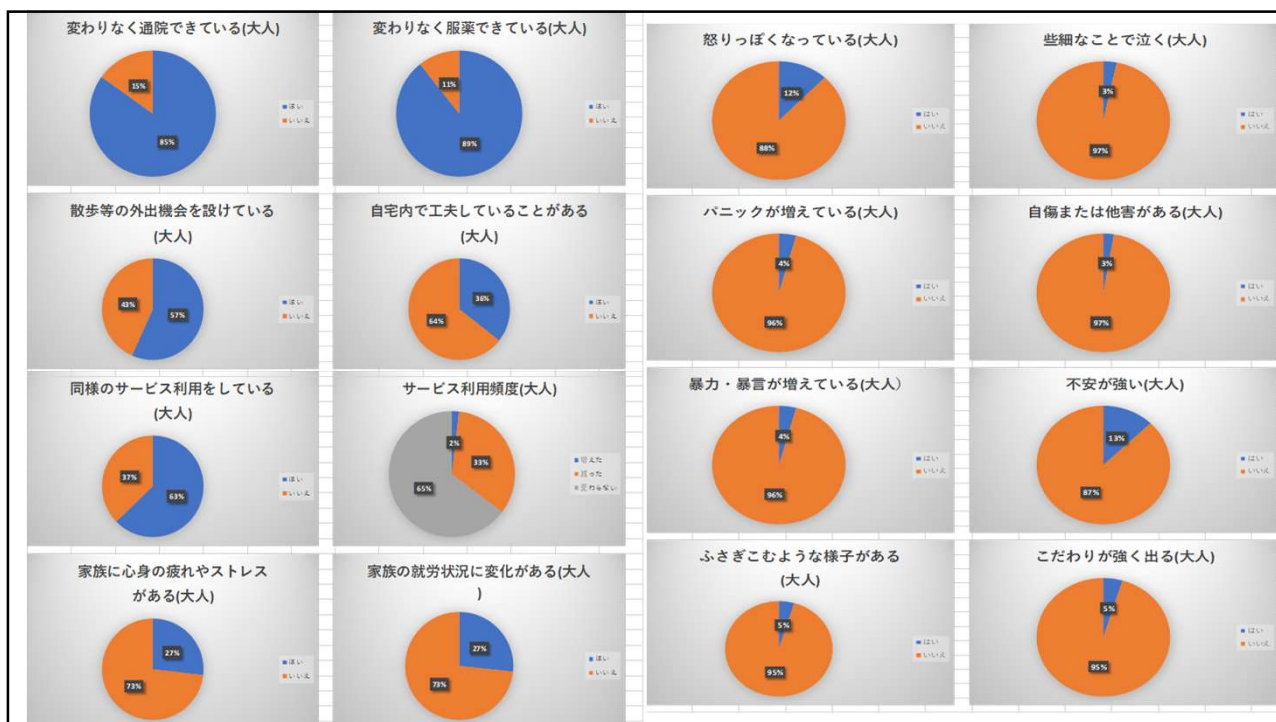
第2波に備えて、事業所の困り感と利用者・ 家族の困り感を把握する<利用者版>

相談事業所	担当相談員名			
<p><目的> ご本人にご家族へ連絡した際に、はじめに必ず読んでください！ 口伝えた 今回のモニタリングは、新型コロナウイルス感染症の状況下に伴う影響について現状把握し、今後の方針を検討することを目的に、5月・6月中に福祉サービスを利用しているすべての方を対象に実施するものです。コロナに伴う影響が出現する前との生活等と比較しての様子を聞かせてください。お忙しいところ時間をとらせてしまいますが、ご協力よろしくお願ひします。</p>				
利用者名	学校名/園名	学年	性別	
通所事業所名【児童】	児童・ 福祉サービス（必ずすべて記入）			
通所事業所名【大人】	生活介護・ 移行・ 就A・ 就B・ 生活訓練（必ずすべて記入）			
ヘルパー事業所名（	）	医療機関名（	）	
生活	①	コロナの影響前と比較し、生活リズムがくずれている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	②	コロナの影響前と比較し、睡眠時間がみだれている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	③	コロナの影響前と比較し、食欲が 増・ 減 している	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	④	コロナの影響前と比較し、体調が悪い様子がある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	⑤	コロナの影響前と比較し、今までできていた生活習慣でできなくなったことがある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
		<具体的な様子>		
	⑥	コロナの影響前同様に通院できている（リハビリ、カウンセリング等含む）	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	⑦	コロナの影響前同様に服薬できている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
		<理由や変化>		
情緒	⑧	ストレス解消のために、散歩・買い物等の外出機会を設けている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	⑨	ストレス解消のために、自宅内で工夫して取り組んでいることがある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
		【はい】の場合 →どのくらいの頻度で、どういった場所に外出しているかや取り組んでいること		
	⑩	コロナの影響前と比較し、怒りっぽくなっている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	⑪	コロナの影響前と比較し、ささいなことでも泣く	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	⑫	コロナの影響前と比較し、パニックの頻度が増えている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	⑬	コロナの影響前と比較し、自傷又は他害行為がある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	⑭	コロナの影響前と比較し、人や物に対し暴力や暴言が増えている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	⑮	コロナの影響前と比較し、不安が強い	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
課題	⑯	コロナの影響前と比較し、ふさぎこむような様子がある	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
	⑰	コロナの影響前と比較し、こだわりが強くなる	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
		<具体的な様子>		

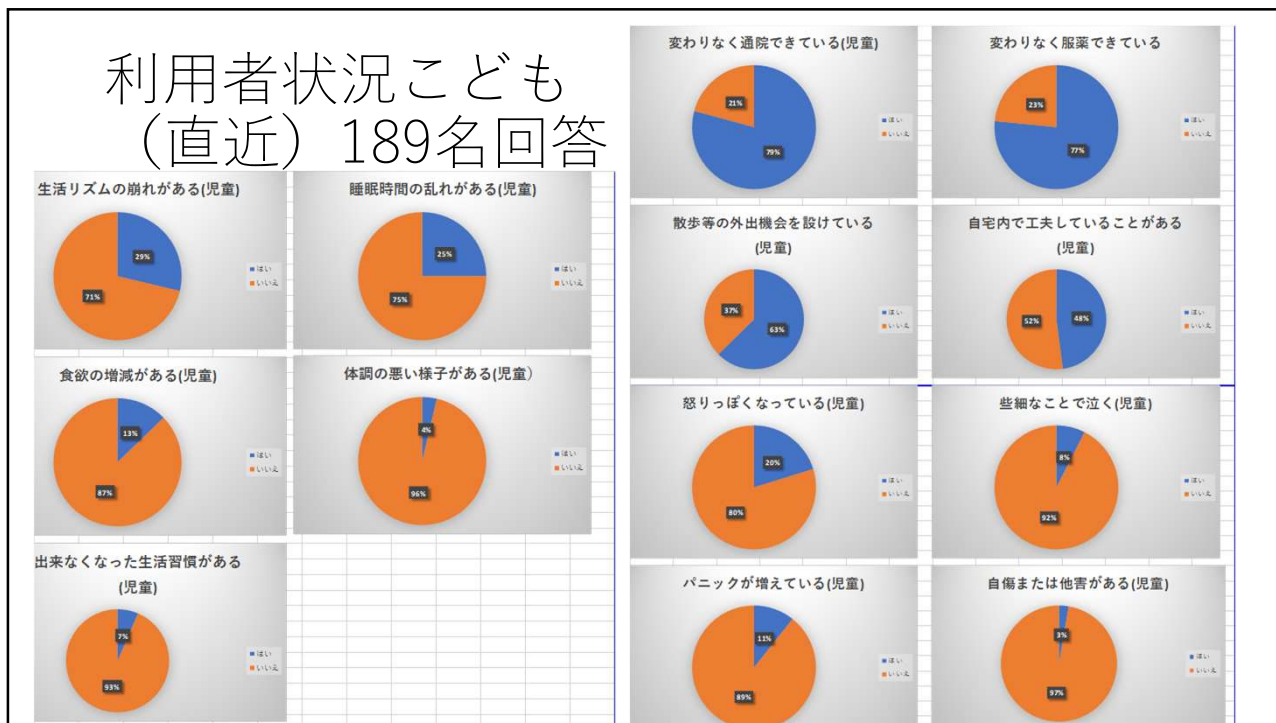
13



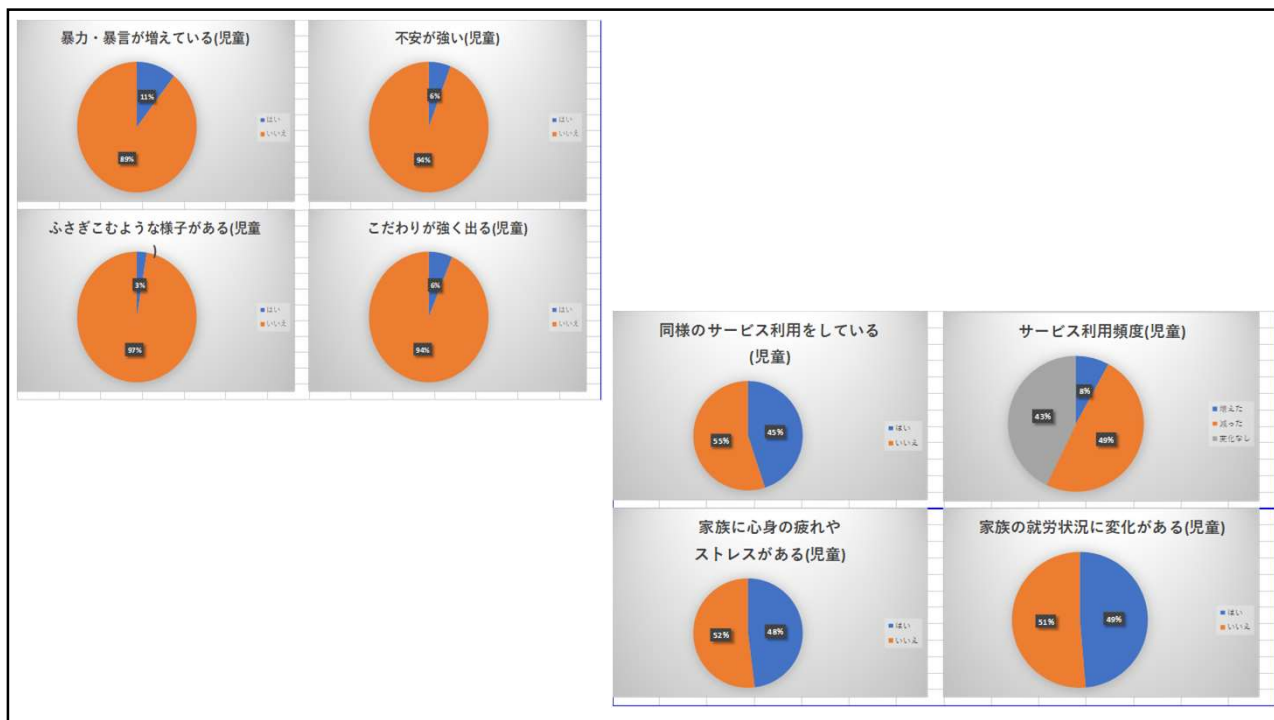
14



15



16

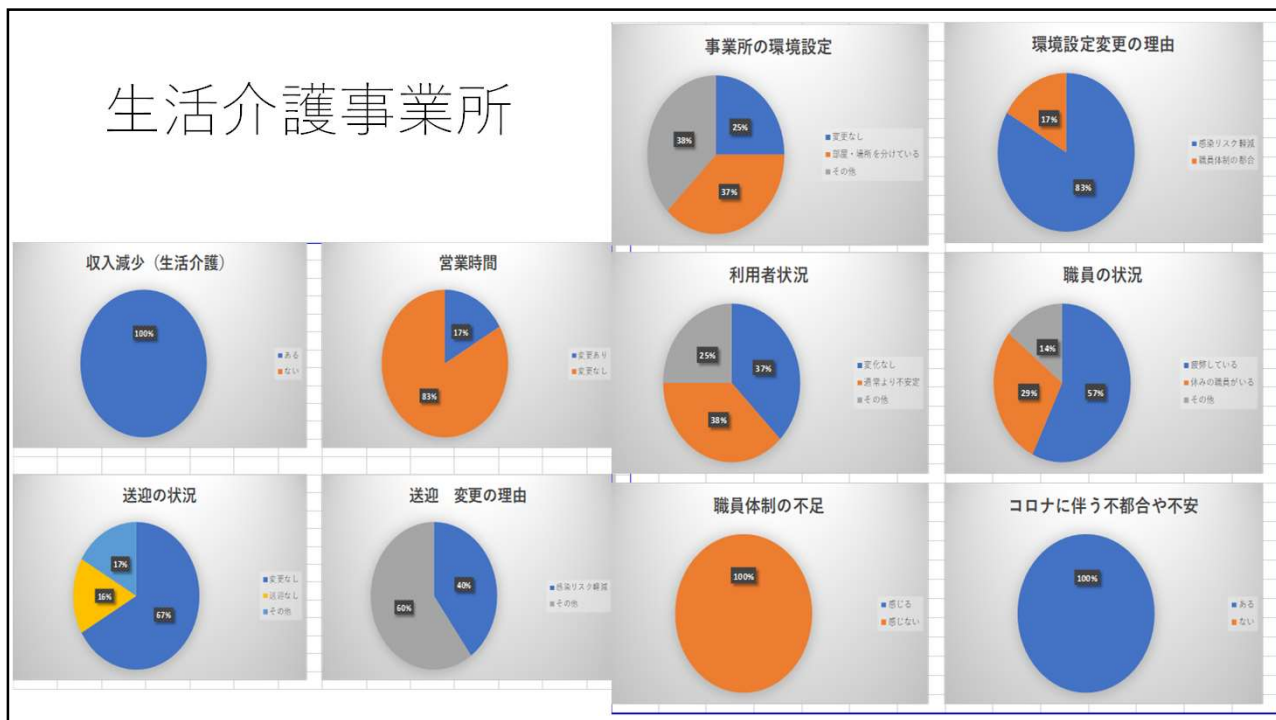


17

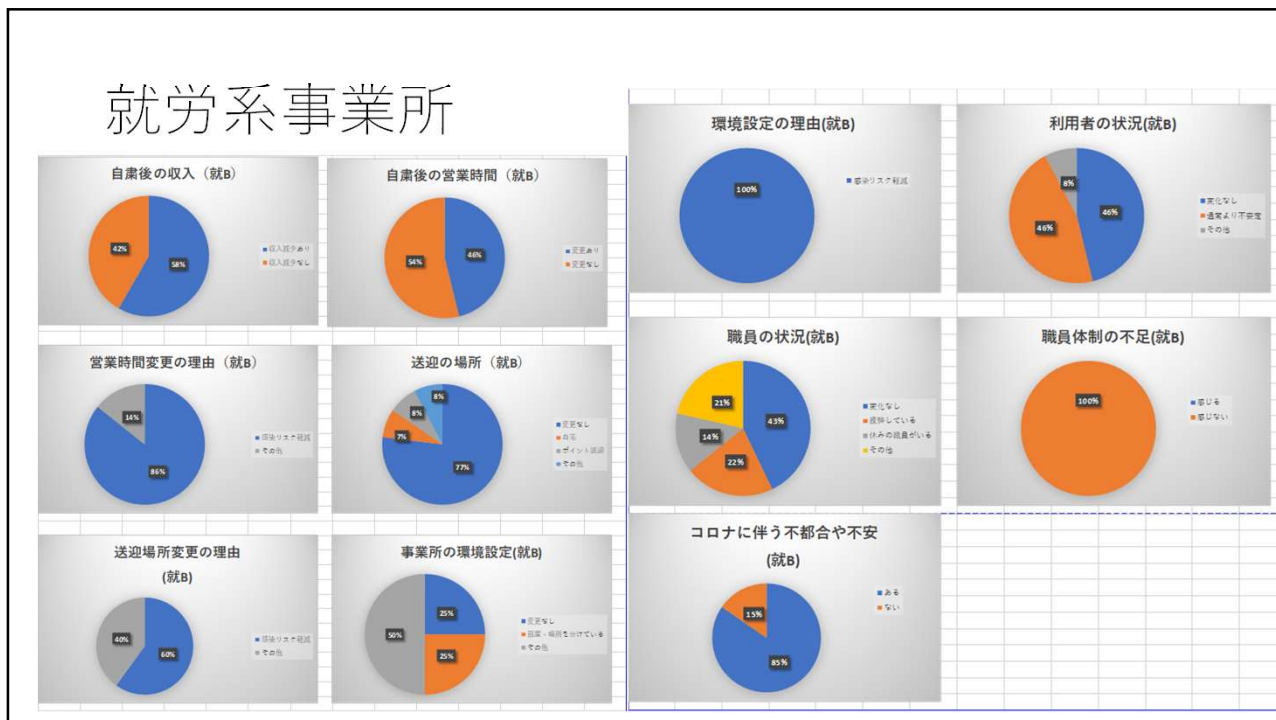
利用者の現状分析

- ・生活リズムの崩れは大人で11%こどもで29%。
⇒こどもは休校の影響が大きく出ている。
- ・通院・服薬については、こども・大人関係なく8割できている
- ・サービスの利用頻度 減った（大人と子供で理由が異なる）
大人減った33%⇒B型などがテレワークや利用時間短縮によるもの
こども減った49%⇒保護者が感染の不安を感じ自粛も多かった。
- ・サービスの利用頻度 増加
親の就労状況（医療職・介護職）のため週3から週5に増加
- ・家族の疲れやストレス 大人12% こども48%
⇒聞き取りの中から、家族のストレスから子供の情緒の不安定につながっていると家族も認識している。
- ・家族の就労状況の変化 大人27% こども49%
⇒障がいのあるこどもを抱える家庭の半数が親の就労に大きく影響している。

18

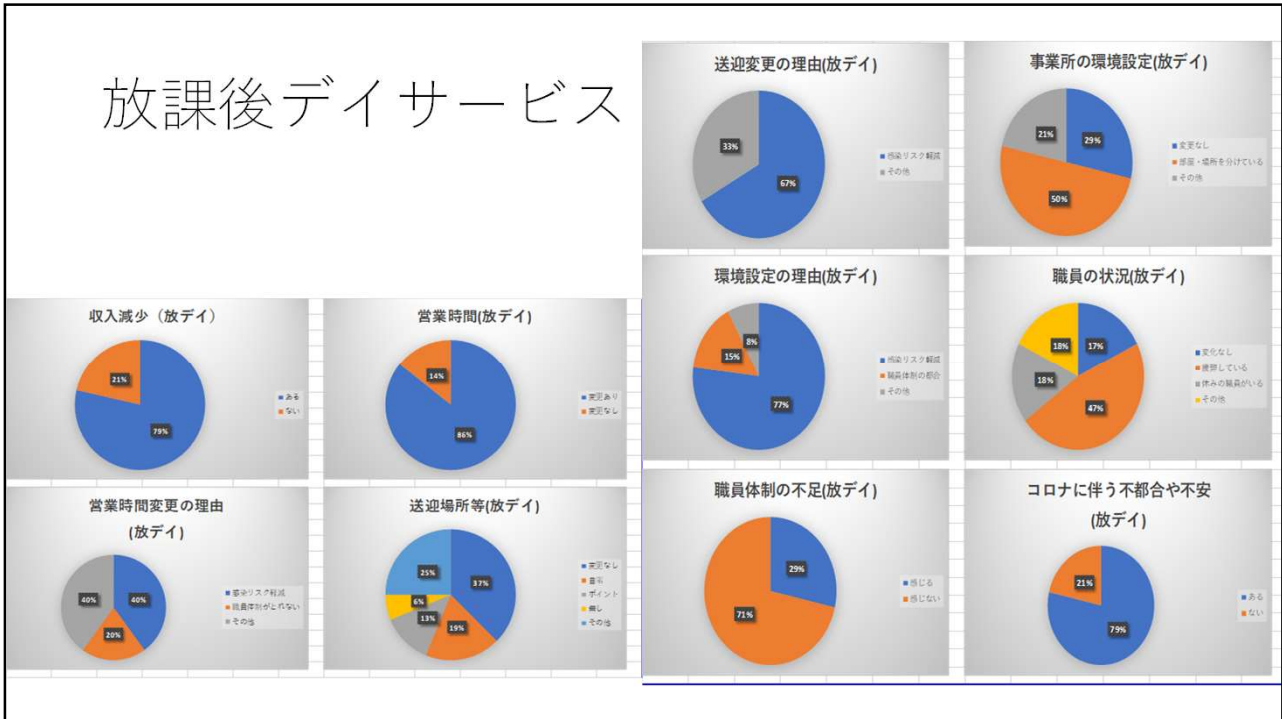


19



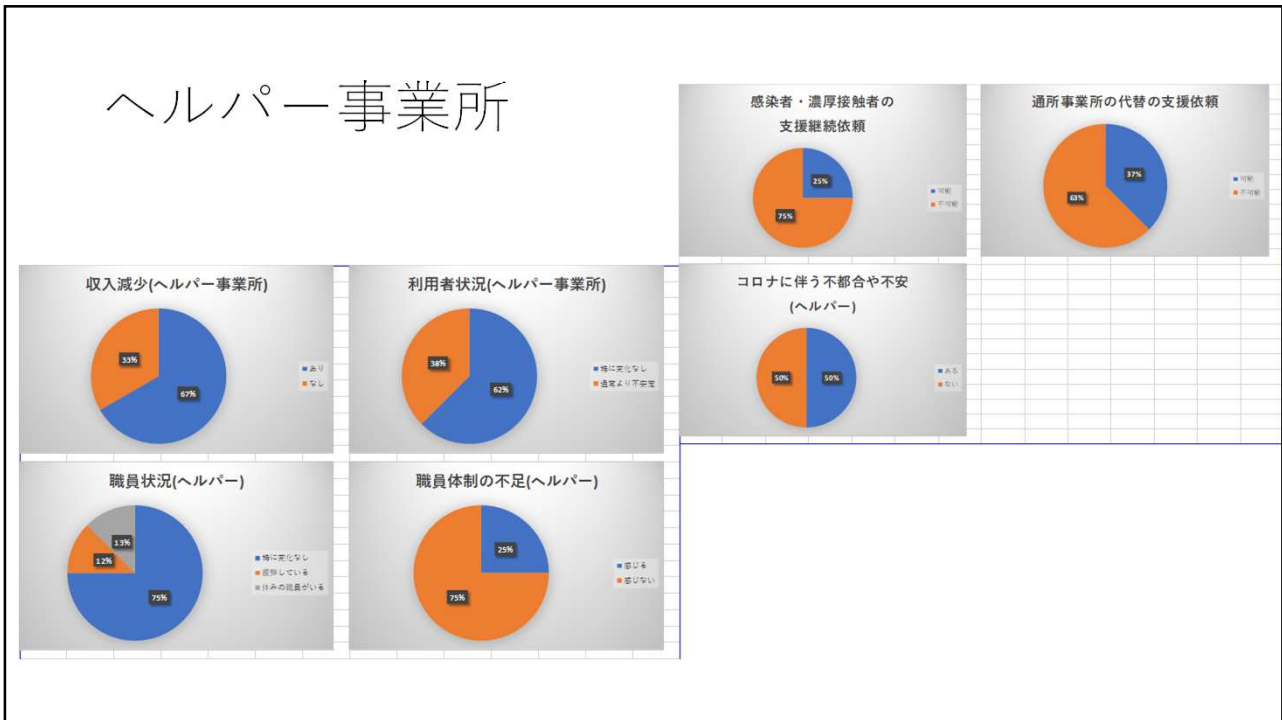
20

放課後デイサービス



21

ヘルパー事業所



22

事業所の分析

- 収入減については、放課後デイや生活介護についてはコロナの不安による自主的な自粛が大きく影響しており、就労Bについては、授産収入の減が大きいと自由記述から読み取れました。元請けからの振り込みが滞っていることや、作業がもらえない現状の記載や、パン等自主製品の販売もできなくなっている回答も多くありました。
- 事業所の環境設定の工夫については、あえて散歩に出るなどで場所をわける工夫をしているところも多く、公的な体育館などをこういう時こそ貸してもらえれば工夫ができるという意見も。また、どの分類の事業所も換気・マスク・検温・消毒などの環境の工夫を実施されているという回答でした。

23

- 職員の状況：どの事業所も対面支援であり、都度の消毒やマスクができない利用者等への配慮などから実作業的にも気遣いとしても負担が大きいとの回答あり。放課後デイについては、3・4か月にわたる長時間支援（先の見えない）への負担も大きいとの回答がありました。
⇒それに対して学生などでも手助けがほしいかとの問いもしましたが、欲しいけれども新たな人が入ってきた調整や不安定が起こる可能性も勘案すると、新しい人を入れることも負担であると回答がありました。
また、小さい子供をもつスタッフは長時間学童保育や留守番をさせるなどの家庭状況にあり、お休みや早上がりなどの工夫を職場としてほしいが、人員の関係上、対応ができていない状況にあるという回答も。
- 送迎については、就労Bや移行については、本来送迎はしていないけれど、公共交通機関を使うことによる感染のリスクが増す可能性を勘案し、ポイント送迎を行っているという回答あり。
生活介護や放課後デイなどは、保護者の協力が可能な方については、送迎したいただくなどの工夫をしている事業所もみられました。

24

最後に、

- まずは、相談支援事業所としての感染対策を整えましょう。
⇒継続可能な準備が必要です
- 市町において（基幹と市町村）感染確認が起こったときの連絡調整のマニュアルや書式を作成し、いざという時に困らないように備えましょう。
- 今回の感染という状況下においては、感染拡大を防ぐための早急な連絡調整が市町村という単位で必要です。支援必要度と事業所の併用等の一覧の作成ができるとベストだと思います。
- 自立支援協議会の議論や研修機能は必要な事業だと認識しています。できるかぎりできる工夫を今から考えましょう。
- 自粛下の利用者・事業所の状況を勘案し、今からわが町で準備すべき事項について、話し合いを持つ場を持ちましょう。
- ・ ・ ・半田でも濃厚接触にあたらなくても、同じ事業所にいた方が在宅で誰も支援する人がおらず、身体介護を必要としたら ・ ・ ・ まだまだ解決に課題がある部分もたくさんありますが、1つずつ議論をして備えるということは必要だと思っています。